

九州地区における災害時の歯科保健医療活動の経験と課題 ～初動時から多職種連携を展開するために～

福岡県歯科医師会 会員 太田秀人

「もし今、九州地区で東日本大震災(2011年)のような地震・津波被害が起きたら、歯科医師として、地域を守るかかりつけの開業医として、どう行動するか」

これが、私が東日本大震災で初めて災害歯科支援活動を経験して以来、この10年間ずっと考え続けてきたことです。

しかし、東日本大震災では発災2か月後の慢性期に1週間だけの支援活動だったので、断面的でしかなく、自分が被災する想定での初動対応を想像することは困難でした。

しかしその後に、私は熊本地震(2016年)で発災1週間後の第1班リーダーおよび外部歯科支援コーディネーター(当時)として活動し、また九州北部豪雨(2017年)では発災4日後の先遣隊および福岡県歯科医師会の災害歯コーディネーター(当時)としての活動も経験したことで、ある程度は初動対応と災害支援活動の全体像が見えるようになってきました。

そして今は、「災害初動の情報を制する者は、災害を制する」、そして「災害初動時にも、歯科保健医療は求められている」と痛感しています。

頻発する自然災害の度に、現場では新たな課題に直面します。そして、その教訓を活かして、保健・医療等の様々な職種で様々な取り組みが行われ、近年の災害医療の現場では、自治体、保健師、医師、薬剤師、栄養士、リハビリなどとの「多職種連携」をキーワードにして、更なる進化を続けています。

日本歯科医師会でも、東日本大震災以降に災害歯科コーディネーター研修会が始まり、それに続く災害歯科保健医療体制研修会では災害図上訓練などの新たな取り組みが行われています。

私自身も福岡県歯科医師会、同歯科衛生士会、九州大学、九州歯科大学、福岡歯科大学などの関係者ととも、九州地区連合歯科医師会から研究助成と開催協力を頂きながら、災害口腔医学研修会を開催してきました。また郡市区の筑紫歯科医師会の医療管理担当理事として、豪雨・台風・コロナ禍などの災害対応に奔走する日々です。

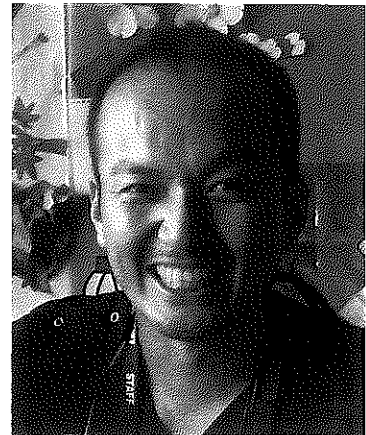
本日は、それらの経験と知見をもとにお話しさせていただきます。災害初動時から多職種連携を展開するために、この研修会が今後の香川県における災害対策の一助となれば幸いです。

講師紹介

「氏名」

おおた ひでと

太田 秀人 先生



「略歴」

1993年 長崎大学歯学部卒業

2009年 おおた歯科クリニック（福岡県太宰府市）開業

2011年 東日本大震災

宮城県南三陸町に、歯科医療救護支援チーム第6班リーダーとして派遣
歯科医療救護活動に従事

2014年～ 筑紫歯科医師会医療管理担当理事（～現在に至る）

2016年 熊本地震

南阿蘇村に、歯科医療保健支援チーム第1班リーダーとして派遣
歯科医療保健支援活動に従事

以後、約1か月間にわたり、外部歯科支援コーディネーターとして派遣

2017年 九州北部豪雨災害

朝倉市と東峰村に福岡県歯災害歯科コーディネーター（当時）として派遣
歯科保健医療支援活動に従事

九州地区連合歯科医師会研究助成事業「災害口腔医学研修会」を主催

（～2020年）

熊本地震歯科支援関係者及び中久木康一氏（東京医科歯科大学）らと協力
九州全8県において、各県歯科医師会などのご協力のもとに開催

2018年 日本歯科医師会 災害歯科保健医療体制研修会（～現在）

「厚生労働省 災害歯科保健医療チーム養成支援事業」として開催
全国を東・中・西日本ブロックに分け、その演習補助者として協力

2020年 日本歯科医師会 災害歯科保健医療体制研修会アドバンス研修会

講師および演習補助者として協力